

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 11 月 1 日現在

機関番号：24201
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2012～2015
 課題番号：24520301
 研究課題名(和文)「共同性なき共同体」の可能性：ジョウゼフ・コンラッド後期作品の再考

 研究課題名(英文)The Possibility of Community without Community: Rethinking Joseph Conrad's Later Novels

 研究代表者
 山本 薫(Kaoru, Yamamoto)

 滋賀県立大学・人間文化学部・准教授

 研究者番号：50347431

 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ジャック・デリダやジャン=リュック・ナンシーらの大陸の思想を援用し、コンラッドの後期作品において時折出現する「奇妙な友愛」が従来の共同体を超えた新たな共同体の在り方を暗示していると論じることによって、苦悩する個人の心理を描く作家としての従来のコンラッドのイメージを幾分か掘り崩すことができた。この共同体を超えた共同体の特異性を、ポーランド=リトアニア共和国である「ルブリン連合」とも結び付けて考察する予定であったが、十分深く掘り下げることができなかった。しかし、「ルブリン連合」については、今後も継続して調査し、コンラッドの過小評価された作品の考察に活かしていく予定である。

研究成果の概要(英文)：Arguing against the long established image of Conrad as the subjective moral impressionist, this project demonstrated that 'strange fraternity' beyond the classic idea of community sometimes takes place in Conrad's texts. In order to make this argument, it read Conrad along with Continental thinkers such as Jacques Derrida, Jean Luc-Nancy and Hannah Arendt, whose remoteness from the Anglo-American literary criticism, from Conrad criticism in particular, makes this project distinctive, in its offering of a new, interdisciplinary reading especially of Conrad's neglected, later works. Some of my plans to think Conrad's unique notion of community in terms of 'Union of Lublin', or the Polish-Lithuanian Commonwealth, remain untouched, but they will be left for my future research.

研究分野：英文学

 キーワード：ジョウゼフ・コンラッド 後期小説 歴史小説 大陸の思想 ジャック・デリダ ハンナ・アーレント
 ジャン=リュック・ナンシー 共同体

1. 研究開始当初の背景

これまでコンラッドの作品の新たな側面を開拓してきたジェンダー研究やポストコロニアル研究は、コンラッド作品における「女性登場人物」やコンラッドの人生において重要な意味を持った「女性」という新しい観点から分析するにしても、コンラッドの前・中期作品を取り上げることが多く、国内・国外ともに現在主流である歴史主義的・文化論アプローチが対象とするのもまた、『闇の奥』や『ロード・ジム』といったコンラッド前・中期の傑作を中心とするいわゆる正典と呼ばれる作品群である。何をもちコンラッドの代表作とするかというコンラッドのいわゆる正典編成は大きく変わらない現状において、後期作品自体がそもそも論じられる機会が極端に少なく、再評価はまだまだ進んでいない。そして、このような現状の支配的な価値観を形成しているのは、英米批評のリアリズム中心の価値観であることから、本研究ではそれに対してヨーロッパ大陸の哲学を参照することによって、英米的批評にみられない視点から後期作品の再評価を目指した。

2. 研究の目的

本研究は、ジョウゼフ・コンラッドの後期作品における「共同体」の特異性を、コンラッドの祖国ポーランドとリトアニアからなる16世紀の「ルブリン連合」のコスモポリタンの民主主義との比較によって明らかにし、それをコンラッドの東欧性という伝記的事実ではなく、ヨーロッパ大陸の現代哲学が西欧的個人主体批判の文脈で論じる「共同性なき共同体」と結びつけて考察しようとした。このことによって、本研究は、従来保守的かつ反民主的とみなされてきたコンラッドの後期作品を、民主主義の来たるべき姿を模索するものとして再評価する

ことを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、現代のヨーロッパ大陸の哲学とポーランド・リトアニアからなる「ルブリン連合」の共同体概念を参照しながら、コンラッドの後期・晩年の作品に見られる「友愛」の概念とその表象の特徴を解明し、著書としてまとめることを目的とする。方法としては、コンラッドのテキスト及び、ヨーロッパ大陸思想の原典の精読をもとに、作品の舞台となったヨーロッパ、主にイギリス・フランスにおいて、フランス革命からナポレオン時代、ポーランド・リトアニアからなる「ルブリン連合」の共同体概念に関する資料閲覧・収集を行う。「個人主体」を基盤として展開されてきた西欧の哲学思想から抜け落ちていた「共同体」に着目する現代のヨーロッパ大陸思想から得た「共同体」に関する知見と、「ルブリン連合」の共同体概念を照らし合わせてコンラッドの「友愛」概念を考察し、まとめたものをポーランド、グダンスク大学における国際学会で発表する。

4. 研究成果

1) 本研究の主な成果

コンラッドの中期の傑作を判断する際の基準である個人の心理がいかに複雑に深く描かれているかという点では、従来後期作品は前期作品よりは見劣りがするものと考えられてきたが、そのような従来の基準に依拠せずに、デリダやナンシーといったヨーロッパ大陸の現代思想とコンラッドの後期作品を読み合わせることによって、これまでただ曖昧でぼんやりとした印象与えないと考えられてきた後期作品で描かれる人間関係及び共同体がコンラッドの生きた時代をはるかに先取

りし、現代の混沌とした時代における共同での人間のあり方とも通じる要素があることがわかった。

2) 本研究の位置づけ

国内での位置づけ

国内のフランス文学では本研究のように思想と文学を融合する研究はめずらしくはないが、英文学の分野ではまだまだ少数派といわねばならない。その意味で、本研究は希少である。また、そもそも、コンラッド研究では後期の作品が議論されることはほとんどなく、研究者の間でもそう多く読まれているとは言えない点からも、本研究の着眼は非常に独創的で、結果として、現代思想に依拠してコンラッドの後期作品は前期作品より劣るどころか、英語よりはフランス語話者でより大陸的気質を持ち合わせているコンラッドのコンラッドらしさに迫る稀有の研究であると言える。

海外での位置づけ

上記のような本研究の独創性は、海外では早くから認められていた。2010年に初めてスウェーデンのデリダ学会で発表した時に、本研究の主題と方法論を評価してくれたサセックス大学のニコラス・ロイルから本研究をまとめて英国で出版するよう促され、英国 Bloomsbury 社より2016年に出版する運びとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3件)

- 1) 単著 Kaoru Yamamoto, ‘Toward a Possible Partage of Memory: “History” and “Solidarity” in Joseph Conrad’, *Solidarity, Memory and Identity* (Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing, 2015) pp.258-269.
- 2) 単著 Kaoru Yamamoto, ‘Hospitality in “The Secret Sharer,” “Wine in Old and New Bottles”’: Critical Paradigms for Joseph Conrad. Conrad: Eastern and Western Perspectives. Ed. Wiesław Krajka. Vol. XXIII (Lublin: Maria Curie-Skłodowska University Press; New York: Columbia University Press, 2014) pp.253-268.
- 3) 単著 Kaoru Yamamoto, ‘Strange Fraternity in *The Rover*,’ *L’Epoque Conradienne: Journal of the French Conrad Society* vol. 38 (Presses Universitaires de Limoge, 2013) pp.103-117.

[学会発表](計 3件)

- 1) Kaoru Yamamoto, ‘An Art of Palpation: Plastic Imagination in *The Arrow of Gold*’, The 41st Annual Conference of The Joseph Conrad Society (UK), at the Polish Cultural Centre (P.O.S.K.) in Hammersmith, West London, and the University Women’s Club in Mayfair, 2-4 July, 2015.
- 2) Kaoru Yamamoto, ‘(Dis)owning a Memory in “The Secret Sharer”’, Seminar: Modernist Episodes, “Everydayness and the Event” in

Modernist Studies Association 15th Annual Conference, 29 August-1 September 2013. University of Sussex, Brighton, UK.

- 3) Kaoru Yamamoto, 'Responding in a Duel: History as Responsibility in "The Duel"' 日本ジョウゼフ・コンラッド協会第一回国際学会、於跡見学園女子大学, 2013 年

〔図書〕(計 1 件)

Kaoru Yamamoto, *Strange Fraternity: Rethinking Conrad's Concepts of Community in his Later Novels* (Bloomsbury, 2016) 校正中

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

山本薫(YAMAMOTO KAORU)

滋賀県立大学人間文化学部

国際コミュニケーション学科准教授

研究者番号: 50347431

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号: